

英語学習の中上級者や英語教育者がよく疑問を抱く、英文法に関するチャレンジングな問題です。あなたの英文法力を診断し、英語学習へのモチベーションを上げることを目指しています。

- Q1** 今から入るのは get into を使うのに、「入った」という場合は entered という方が多いのはなぜですか。 p.25
- Q2** お金を盗まれ、えらい目に合ったときに、My purse was stolen. とかわずに、I had my purse stolen. とするのはなぜですか。 p.32
- Q3** enjoy は学校で他動詞と習ったのですが、自動詞用法もあるのですか。 p.36
- Q4** 「食事は終わりましたか。」と聞く場合、Are you finished?、Have you finished? (自動詞用法)、Have you finished your meal? (他動詞用法) のどれが一般的ですか。 p.38
- Q5** 学校でよく、第3文型と第4文型の書き換え練習をしましたが、両者にニュアンスの違いはないのですか。 p.44
- Q6** We provide food to them. と We provide them with food. の違いは何ですか。 p.45
- Q7** 「雪を道路から取り除く」という場合、clear the road of the snow と clear the snow from the road の違いは何ですか。 p.46
- Q8** 「誰かに仕返しに行く」と言うときなどによく pay him a visit のように、pay を用いて言うのはなぜですか。 p.48
- Q9** It is designated (as) a cultural asset. で as を用いる場合と用いない場合で違いは何ですか。 p.51
- Q10** 「身なりをきれいにしておきなさい」というときに、Keep your appearance neat and tidy. の代わりに Have your appearance neat and tidy. をよく聞きますが、両者に違いはありますか。 p.54

- Q11** 「この仕事をうまくやれば昇進させてやろう」と言う場合、if あるいは when の中は、現在、未来、現在完了などを用いて様々な言い方がありませんか。 p.67
- Q12** 時や条件を表す副詞節 (if 節や when 節など) の中では、「未来形」の代わりに「現在形」を使うと言われたりしますが、そうではないのはどんな場合ですか。 p.68
- Q13** 新幹線の放送で、We will soon be arriving at Osaka. とありましたが、どうして will や are going to ~ を使わないのですか。 p.71
- Q14** 「最近は」を表す場合、nowadays、these days は動詞が「現在形」になるのに、recently はどうして「現在完了・過去形」を使うのですか。 p.72
- Q15** レジで店員が「30ドルになります」という場合、30ドルは決まっているのに、That'll be \$30. のように will をつけるのはどうしてですか。 p.76
- Q16** 自販機にお金を入れても商品が出てこない場合や、天気予報で雨なのに晴れの場合に、It should come out. It should rain today. のように、should を使うのはなぜですか。 p.76
- Q17** 可能性の低い推量を表す could の否定形を用いた It couldn't be true. は「そんなことはないだろう」という意味ですか。 p.77
- Q18** 可能性の低い推量を表す could を用いて、You could be more energetic. I could kill you. はそれぞれ「君はもっと元気になるだろう」「僕は君を殺すだろう」という意味ですか。 p.77
- Q19** 「した方がいい」と言う場合、had better、should、need to、might、could があると思いますが、それらの違いは何ですか。 p.78
- Q20** 貧しい母親が子供にお金をあげようとする、子供は I can't take it. と言ったのに対して、母親が Yes, you can! と言ったのは「あなたはできます!」という意味になりますか。 p.78
- Q21** 「禁止」を表す場合の、cannot、may not、will not の違いは何ですか。 p.79

1

「アクションを決定する3種類の動詞の語法」を完全マスター！

英語では「言語コミュニケーション」のことを「バーバルコミュニケーション (verbal communication)」といい、バーバルには「動詞の」という意味があります。それだけ英語では動詞の働きが重要で、まず「アクションを決定する動詞の語法」について学ぶ必要があります。その分類には全部で3種類あり、この他のバリエーションとして、「時制 (tense)」と「仮定法 (subjunctive mood)」がありますが、それらは別のセクションで扱います。

1つ目は「動的 (active and dynamic)」かどうかの違いによる分類で、具体的には「プロセスか結果か」「動的 (dynamic) か状態的 (stative) か」「能動的 (active) か受動的 (passive) か」「自然現象 (自動詞) か人為的現象 (他動詞) か」の分類です。これらに関しては、ほとんどの英語学習者は大体分かった気になっていますが、クリアに理解していないため、使い分けが正確にできていないケースが多く見られますので、これらをこの章で完全にマスターします。

2つ目は、「文型上の分類」です。これによると、「第1文型」に用いられる動詞は「自動詞 (他者に影響を与えず与えられることもない動詞)」で「補語 (主語や目的語の性質・状態を表す語)」を伴わないものです。「第2文型」では「subject (動作の主体: 主語)」の性質・状態、「第5文型」では「object (動作の対象: 目的語)」の性質・状態を表す「補語 (complement)」を伴います。「第3文型」では「他動詞 (他者に影響を与える動詞)」と対象を表す「目的語」が1つだけ用いられ、「第4文型」では「直接目的語 (direct object: 「～を」をとる語)」と「間接目的語 (indirect object: 「～に」をとる語)」の2つの目的語を伴います。これらは高校の英文法の授業で習うものですが、ほとんどの英語学習者はそれらのコンセプトと用法を深く理解しておらず、また幅広く応用もできないまま英語を使っているようです。

最後は、「動詞のベクトル (力と方向)」によって、「1. 滞・在・有 2. 合・閉・定 3. 動 (上・下・転) 4. 運 (上・下・転) 5. 内 (取り込む) 6.

外に出す (与える) 7. 開・広 8. 打・触 9. 断・壊」の9つに分類することができます。この分類は高校や大学では教えていないのでほとんどの人は知りませんが、これも重要な動詞の分類で、これを知っていると「力と方向」の点で正しく動詞を使い分けることができます。

1. 「動的 (active and dynamic)」かどうかの使い分けをマスター！

「プロセス／結果」「動的／状態的」「能動的／受動的」「自然現象／人為的現象」の4つの分類の1つ目の動詞の「プロセスか結果か」についてです。英語の動詞というのは、その使い分けによって「これから動作を行うのか」「動作の途中なのか」「動作が完了したのか」という動作の「プロセスの段階」を見極める必要があります。そこで次の問題にチャレンジしてみてください。

問題

Q. 「そのビルに入ろう」と言うのは次のどちらがいいですか。

Let's enter the building.

Let's get into the building.

A. Let's get into the building.

前置詞の into を伴わない前者は、enter という「入るプロセス」ではなく、「結果」を表す他動詞を用いているので、「これから入ろう」というプロセスを表すときには、後者の get into がベターです。逆に単に「彼らはそのビルに入った」という「結果」を表す場合は、They entered the building. がよくなります。

実際 Google 検索をしてみても、「これから入る」場合は get into が enter の何十倍も多いのに対して、「入った」場合は entered の方が got into より倍以上多くなってきます。

同様に、事務用品の買いだめをしている人への質問として、次の2つの英語の違いが分かりますか。

問題

Q. 「事務用品の買いだめかい？」は次のどちらがいいですか。

Are you stocking office supplies?

Are you stocking up on office supplies?

A. この2つの違いは、後者はプロセスを重視して、「どんどん蓄えていく」ニュアンスがありますが、前者は結果的に「ため込んだ」と言っているだけなので、「過去形」では **stocked office supplies** が **stocked up on office supplies** より圧倒的に多くなりますが、「進行形」だと同じように用いられます。

同様に「車のブレーキを緩めてください」という場合も、結果を表す **Ease the brake.** よりも、**Ease up on the brake.** (ブレーキを どんどん緩めていってください) のようにプロセスを表す方が何十倍も多くなります。「ブレーキを緩めた」という場合は、**eased the brake.** の方が、**eased up on the brake** よりも何倍も多くなります。

また、「～に着く」という場合も、「今から向かう」場合は “How can I get to the station?” のように “get to” や “head for” を用い、「～に向かって到着ですよ」という場合は、“We will be arriving at the station.” のように使い、「やっと着きましたよ」のように結果を重視する場合は “reach” を用います。それから、**finish the job** に対して、**finish off the job**、**finish up the job** という場合がありますが、**finish** が「単に仕事を終わらせる」と言っているのに対して、**finish off** は「発・離」を表す **off** が入っているために、「早く切り上げてしまって仕事から去ろう」という「躍動感」が加わり、**finish up** は「完了・満了」を表す **up** がついているために、「いものに仕上げていって完成させよう」というニュアンスになります。

さらに、次の **improve** と **improve on** の違いも考えてみてください。

問題

Q. 「彼らは前のモデルを今のモデルに改良した」を意味するのは次のうちどちらですか。

They improved the model.

They improved on the model.

A. **improve** と **improve on** では、**improve** は「何か（通常問題のあるもの）を改良（改善）する」、**improved** であれば「以前のモデルから今のモデルへと改善した」と言っているのに対して、**improve on** は、**on** に「加える」という用法があるので、**on** 以下のものを元にして「今のモデルに改良を加えてより良いものを作る」というニュアンスになります。

それから「考慮・検討している」を表す、**consider** と **consider on** の違いも同様に考えてみてください。

問題

Q. ビジネスプロポーザルを出されて、それに対して「目下検討中です」に近いのは次のどちらですか。

I am considering it.

I am considering on it.

A. 前者の前置詞 “on (～に関して)” のない他動詞 **considering** は、「直接的・結果的」と言えるもので、実際にやってみようと前向きに検討している場合で、「～をやってみようかと思っています」に近くなります。よって、**You are considering marrying her?** と言えば、「彼女と結婚しようと思っているね？」となり、**You are seriously considering marrying her?** と言えば、さらに意味が強くなって「本気で結婚しようと思っているね？」に近くなります。それに対して、“**considering on**” と言うと **on** で「考えるプロセス」が長くなって意味が弱まり、「するかどうか検討して迷っている、ちょうど **fifty-fifty**」の状態に近くなります。ちなみに、同義の “**take ~ into consideration**” は、「～を考慮の中に入れる」といった間延びした表現で、「考えておきましょう」のように本当にアクションを起こそうとする

る気持ちのなさを表します。また、同じく前置詞を伴った“be thinking of [about] ~ing”は、同様に of [about] がプロセスを表し、「~しようかなと思っている」という「しようと思っているが迷っている状態」を表します。気持ちを数値的に表すと次のようになります。

■ 「~しようとする気持ちの度合い」

be seriously considering ~は「やろうとする気持ち 90%」
be considering ~は「やろうとする気持ち 70～80%」
be thinking of [about] ~は「やろうとする気持ち 60%ぐらい」
be considering on ~は「やろうとする気持ち 50%」
take ~ into consideration は「やろうとする気持ち 20～30%」

この他にも「プロセスか結果か」を表すパターンで知っておいてほしいものがあります。1つは「第5文型」に関するもので、もう1つは第4文型に関するものです。第5文型 (S+V+O+C) に関しては、モノを動かす動詞が重要で、「開け閉め」を表す動詞のグループ (**blast, blow, clamp, force, jam, kick, nail, pry, pull, push, shut, slam, slide, spread, yank**) などがそうです。

問題

Q. 次の文を比べてみてください。違いを感じますか。

「彼女はドアを蹴って開けた」

She kicked the door open.

She kicked open the door.

A. 前者は「ドアを蹴ると開いた」という「蹴る」という行為と「開く」動作の間に動作のプロセスがあるニュアンスで、後者は「ドアを蹴り開けた」という「同時動作」のニュアンスです。同様に、

throw the window open (ぱっと窓を開ける) → **throw open the door** より2倍多い。

slam the door shut (ぱたんとドアを閉める) → **slam shut the door**

より4倍多い。

turn the lid open (蓋を回して開ける) → **turn open the lid** より60倍多い

pry open the door (ドアをこじ開ける) → **pry the door open** より7倍多い。

nail the door shut (釘を打ってドアを閉める) → **nail shut the door** より7倍多い。

spread its wings wide (翼を大きく広げる) → **spread wide its wings** より3倍多い。

2. 「動的 (dynamic) か状態的 (stative) か」の使い分けをマスター！

1987年に出版された『ジーニアス英和辞典』(大修館書店)は、dynamic (動的) か stative (状態) かの違いを示した画期的な辞書として有名ですが、文法的には、動詞では、

1. 「動作・動き・変化・行為」を表す「動作動詞」
2. 「感情・感覚・知覚・所有」など「継続的状态」を表す「状態動詞」
3. 両方の機能を持った「動作状態動詞」

の3分類があります。

1. 動作動詞

大部分の一般動詞に当てはまり、「短時間にオン・オフを繰り返す」ことができ、「進行形」にできる動詞で、play, run, write, sing, study, read などのように、急にやめたり、繰り返すことができる動詞です。ちなみに、動作動詞を現在形で用いた場合、**I eat breakfast every morning.** (私は毎朝朝食をとります) のように、現在を中心に過去から未来にわたって繰り返される「習慣的動作」を表します。

2. 状態動詞

状態動詞は次のような「継続的状态」を表す動詞です。